自治労第97回定期大会
「全組合員で一歩前へ踏み出そう」
石上千博新委員長を先頭に運動方針確立

▲石上新委員長の団結ガンバロー（右は自治労組織内議員・岸まきこ）

自治労第97回定期大会は8月28から30日、北海道函館市「函館アリーナ」で開催、「声を力に、一歩前へ」をメインスローガンに全国から3,400人の代議員・傍聴者が参加した。

開催に当たり、川本中央執行委員長は「①人事院は総務省対策を行っていく。②この間、新採組織率の低下、脱退者の増加などを要因として組合員の減少が続いている。コロナ禍で停滞した単組活動を再度活性化し、組織強化をはかっていくことが喫緊の課題。組合員一人ひとりの「声」を集め、それを組織の「力」に変え、日常的な組合活動を展開し、職場の課題を「一歩前へ」と進めていく。③自治体のあり方や政策、公務員の賃金労働条件などが政治の場で決まってしまう以上、私たちは政治に無関係ではいられない。懸命に現場の最前線で奮闘している組合員の声を国政に届けるためにも、次期参議院選挙には、現・自治労組織内参議院議員「岸まきこ」を、再び自治労の代表として国政の場に送り出さなければならない」とあいさつ。

本部方針の提起を受け、質疑・討論で43県本部1社保労連が発言。自治労岩手県本部佐々木辰治代議員（県職労）は、組織基盤強化計画における重点課題の組織強化の実践、平和闘争、護憲、真の平和を実現する取り組みへの運動推進などを訴え、討論に参加した。

今大会では新執行部の役員選挙が行われ、新中央執行委員長に石上千博さん（北海道・富良野市労連）が圧倒的多数の信任で選出され、また、今大会で勇退する川本前中央執行委員長に対し、多くの代議員が発言の中でその労をねぎらった。

方針は賛成多数で採択、最後に石上新中央執行委員長は、「自信を持って、勇気を持って、元気を持って運動に関わっていけるよう、全員で一歩前へ出る運動に取り組もう」と述べ、参加者全員の団結がんばろうで意思統一した。

8月7日、月例給・一時金ともに引き上げる勧告を行った。秋の自治体確定闘争では、単組・県本部・本部が一体となって全力で取り組むほか、給与制度の見直しが全世代のモチベーション向上につながるよう、公務員連絡会に結集し取り組みの運動推進などを訴え、討論に参加した。

ご支援ありがとうございました
盛岡市議会議員　野中　やすし

▲2期目の決意と抱負を述べる野中靖志盛岡市議

8月13日の盛岡市議選では、県職労の皆様から大変力強いご支援を頂戴し、2期目の議席を得ることができました。心より感謝申し上げます。

今回の市議選は、38人の定員に対し、50人が立候補するという大混戦の選挙戦となりました。

しかも、県職員の出身者が私を含め4人も立候補したこと、加えて投票日が夏休みの只中で、投票率の低下が懸念され、大変厳しい選挙戦でありました。

さらに、今年は例年になく暑い日が続きました。猛暑の中、支持者の拡大に懸命に取り組んでいただいた皆様に重ねて感謝申し上げます。

選挙戦では家計を圧迫している「ガソリンの高騰対策」や人口減少の要因でもある「地域別最低賃金の引上げ」、子育て支援として「学校給食の無償化の実現」などを訴えました。

これからの4年間、公約の実現に向け一つひとつ着実に取り組む決意です。

新議会の会派については「市政クラブ」に引き続き所属します。また「産業環境常任委員会」に所属し、当市の経済を支えている中小企業で働く労働者への支援や、地球温暖化対策などに取り組んで参ります。

次に、9月3日に行われた知事選では、県職労が推薦する現職たつこそ拓也氏の再選と、県議選でも大部分の推薦候補者の当選を勝ち取ることができました。

知事選・県議選での勝利は、今後の県職労の活動にプラスにつながるものと考えます。

結びに、これからの4年間、私の市議会での活動に対し、皆様のご支援とご指導をよろしくお願いいたします。本当にありがとうございました。

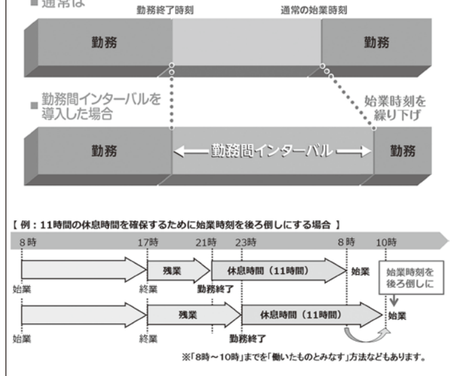
2023人事院勧告から「勤務間インターバル」とは？

勤務間インターバルとは、1日の勤務終了後、翌日の出勤までの間に、一定時間以上の休息時間（インターバル）を設けることで、労働者の生活時間や睡眠時間を確保するものである。民間企業では、「労働時間等の設定の改善に関する特別措置法」により、制度導入が努力義務とされている。具体的なインターバルの時間は、労使の話し合いに基づき、就業規則、労働協約等により定めることが適当とされている。国の中小企業向け助成金の制度設計からみて、最低9時間～11時間が推奨されているものと考えられる。

現時点では、国家公務員及び地方公務員は努力義務の適用除外とされているが、2021年7月に閣議決定された「過労死等の防止のための対策に関する大綱」においては、公務員についても、目標の趣旨を踏まえ、必要な取組を推進するものとされている。

今年の人事院勧告では、「公務員人事管理に関する報告」の中で、「国家公務員についても、勤務間のインターバル確保の取組を早期に推進していく必要があり、そのためには、各省各庁の長の勤務間のインターバル確保に努める責務を法令上明確にすることが適当」とし、人事院規則において新たに勤務間インターバル確保の努力義務の規定を設け、2024年4月の施行をめざす方向性が示された。ただし、課題の把握・分析等は今後の対応となる。

勤務間インターバルは、労働者の健康やワーク・ライフ・バランス確保の観点から、県の職場でも導入の必要性は高いと考えられる。8時30分始業の場合、インターバルを11時間と仮定すると、前日の勤務終了時刻が21時30分以後となった場合に始業時刻の繰り下げが発生する。仮に、終業時刻も連動して繰り下げると、勤務時間の深夜への後ろ倒しの常態化を招き、ひいては連日の深夜残業に対応するための超勤隠しの横行を招く恐れがあるため、本来の始業時間と繰り下げ後の始業時刻の間の時間について、例えば「働いたものとみなす」等の措置が必要と考えられる。



【図】勤務間インターバル制度を導入した場合に考えられる働き方（厚生労働省東京労働局ホームページから）
https://jsite.mhlw.go.jp/tokyo-roudoukyoku/hourei_seido_tetsuzuki/interval01.html

自治労県本部第58回定期大会
◆日時　2023年9月30日（土）
午前11時～午後5時
◆場所　盛岡市「岩手県高校教員会館」
※各支部は代議員の選出をお願いします。
（各支部1人、中央執行委員4人、現業評議会、青年婦人部は各1人の選出となります）

白熱したラリーで交流！
胆江支部　スポーツ交流会を開催

▲スポーツ交流会の参加者で記念撮影（リフレッシュして皆さんいい笑顔です！）

▲交流会を楽しんだ新採用職員の3人

胆江支部青年婦人部は、9月8日（金）にスポーツ交流会を開催した。

当日は15人（うち、新採用職員3人）の組合員が2人1組でダブルスを組んで卓球を楽しんだ。

参加した新採用職員からは、「普段かかわりのない方々とスポーツを通じて交流ができたうえ、身体を動かしてリフレッシュができて楽しかった」「とても緊張していたけれど、皆さんのおかげで楽しい時間を過ごすことができた。総当たり戦で動き回ったこともあり、無事次の日は筋肉痛でした（笑）また機会があったら参加したい」「自分の職場以外の職員の方々と交流する機会は限られているので今回参加できてよかったです。卓球での交流ということで、比較的コミュニケーションがとりやすいと感じた。みんなで楽しめるようなスポーツでの交流会は今後も参加していきたい」との感想があった。職場を越えた繋がりを継続・拡大し、今後も交流の場を提供していきたい。

終戦の日 街宣
78年目の反核・平和を訴える

▲岩手県公会堂前で反核・平和を訴え街頭演説する参加者（左から2人目が野中市議）

今年は、太平洋戦争の終戦（敗戦）から78年目となる。78回目の終戦の日である8月15日、盛岡市内において平和環境岩手県センター主催による終戦の日街宣行動が開催された。街宣行動には、平和環境岩手県センターの及川隆浩事務局長（自治労県本部書記長）、平和環境盛岡紫波地区センターの藤村秀樹議長代行（県職労書記次長）、県職労組織内で2期目の当選を果たした野中靖志盛岡市議会議員などが参加した。

初めに、盛岡駅前に全参加者が集まり、街頭演説を行った。街頭演説では野中盛岡市議から、ロシアのウクライナ侵攻についていまだ収束のめどが立たない中、外交努力よりも軍備増強ばかりが進められ、日本においても岸田政権は防衛費の倍増に突き進んでいることから、戦争を一刻も早く終わらせ、平和な国際社会を築いていくため、こうした方針の転換が必要であること、原爆被爆者に対する支援が、原爆投下時にいた場所で線引きされ、被爆による症状があっても支援を受けられないなど、不十分な事例があること等について、近隣の市民や帰省客等に訴えた。

また、核をめぐる今日的課題である東京電力福島第一原子力発電所のALPS処理水について、海洋放出が行われると漁業への深刻な風評被害が懸念されること、仮に風評被害に対する金銭賠償が行われたとしても、漁業者がこれまでと同様に誇りを持って生業に従事できるものではなく、決して十分な解決とはなり得ないこと、海は全世界につながっており、海洋放出の影響は岩手県近海を含め、広範なものとなること、岩手県沿岸部に地盤を持つ有力国会議員は頻繁に来県しているにも関わらず、漁業者の多くが反対する海洋放出の件について一切語らないこと等を指摘し、「核と人類は共存できない」ことを訴えた。（ALPS処理水の海洋放出は8月24日から実施）

その後、自治労岩手県本部の街宣車と岩手県教職員組合（岩教組）の街宣車の2台に分かれて、盛岡市内各地を巡回しながら街宣したうえで、岩手県公会堂前に再び全参加者が集まり、改めて同様の訴えを行った。

旧統一教会問題から考える――報道の自由
第2回佐高信文化塾

平和環境岩手県センター主催の「2023第2回佐高信文化塾」は、9月9日、岩手教育会館において開催された。ジャーナリスト、作家、「やや日刊カルト新聞」主筆の鈴木エイト氏を講師とし、「統一教会の政界工作　メディアは何を伝えてきたのか」という演題の講演を受けた。

講演では、旧統一教会（世界平和統一家庭連合）の多額献金や霊感商法等の問題について、かつては一般のメディアでも報道されていたが、2006年頃からほとんど報道されなくなり、2022年7月の安倍晋三元首相銃撃事件の数日後になってから突如として再び報道されるようになったこと、旧統一教会の施設

▲会場のようす（左上円内は講師の鈴木エイト氏）

が警察の捜索を受けたことをきっかけに、信者を国会議員の秘書として送り込む等の政界工作を強化するようになったこと、韓国の旧統一教会教団本部への多額の送金は日本からのみ行われており、日本での多額の集金が行われない限り旧統一教会は存続困難であること、講師の活動は旧統一教会の宗教活動自体を妨げる趣旨ではなく、反社会的な活動を批判する趣旨であること等の話があった。

なお、第3回は12月2日（土）午後2時からエスポワールいわてにおいて、佐高信氏を講師として開催される予定である。参加希望者は、本部又は各支部書記局への連絡をお願いする。

給与振込の新規ご指定
ATMお引出し手数料を気にしていますか？
自分のお金を引出しするのに、自分のお金を減らすのはすごくもったいないことです。
東北ろうきんのキャッシュカードなら、全国のろうきん、コンビニや他金融機関のATMでお引出しされた際の手数料を即時・全額キャッシュバックします。
いつでも　どこでも　何度でも
ATMお引出し手数料
24時間※ 実質0円
※セブン銀行・ローソン銀行・コンビニATMイーネットでご利用の場合。システムメンテナンスなどにより、ご利用いただけない場合があります。
給与振込は東北ろうきんがおすすめです！